

行動ログで情報空間をよりリアルに

— 実世界行動情報と情報空間行動情報の統合に関する研究 —

相原 健郎
Kenro AIHARA

小柴 等
Hitoshi KOSHIBA

森 純一郎
Jyunichiro MORI

武田 英明
Hideaki TAKEDA

どんな研究？

- 実世界および情報空間（インターネットなど）での行動ログの収集とそれらの統合に関する研究です。
- ここでは特に、収集したログを解析することで、**ユーザのコンテキスト（目的や気分）の推定**や、ユーザごとの有用でかつ**“受容され易い”情報を推定**する技術に関する研究を進めています。
- 「今日はちょっと疲れたな、さっぱりしたものが食べたいな。」と思ってお店を検索したら、コンピュータが**そんな気分を察してぴったりのお店を探してきてくれる**…そんな未来につながる研究です。

実世界の行動

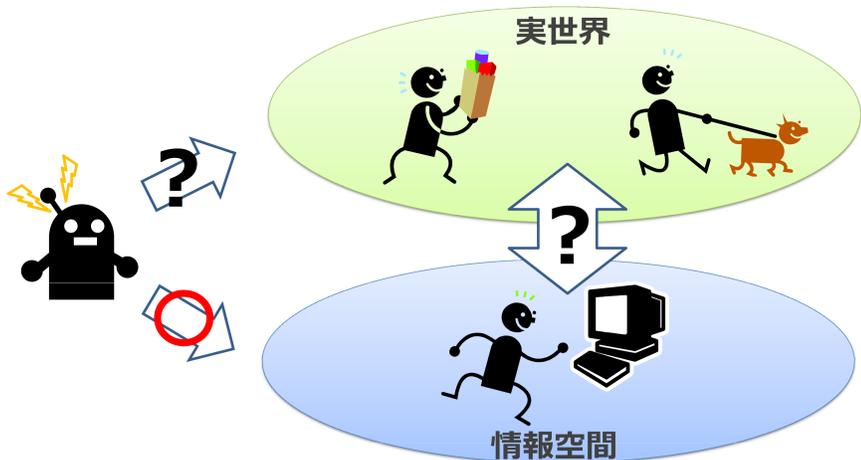
- あなたがよく行くお店の情報
- あなたの買ったお洋服の情報
- あなたが見たWebページの内容
- あなたの書いたブログ記事の内容

情報空間の行動



今の気分は？

あなたが受容しそうな情報は？



なぜこの研究が必要なの？

- あなたにぴったりの情報を探すには、**あなたの事をよく知り、あなたの気分や、気に入るようなものなどを考える必要があります**。でも、コンピュータは実世界でおきていることを知るのがとっても苦手…
- そこで、**実世界でのあなたの行動をコンピュータに教えてあげるための仕掛けや、実世界の行動と情報空間（インターネットなど）の行動を関連づける仕掛けが必要なのです**。

こんなところで使われています

- 経済産業省の「情報大航海プロジェクト」の一環として、東京都目黒区の“自由が丘”で、一般の皆さんに使っていただきました。
- この実験では、**1.実世界の行動ログ**としてPASMOを用いたお店の訪問履歴や改札の通過情報など、**2.情報空間の行動ログ**として、専用サイト上でのブログの書き込みや閲覧の履歴など、を使用しました。



■ 実証実験で推定した3種類のコンテキスト

■ 実証実験で受容の可能性を推定するために使用したモデル

来店目的

- 3状態で構成
- 自分のため**：自分のための明確な目的があって訪店
(自分で食べるケーキを買いに、歩き疲れたので休憩など)
- 他人のため**：誰かのために訪店
(恋人へのプレゼント選び、お友達との待ち合わせ…など)
- ぷらっと：無目的、何となく

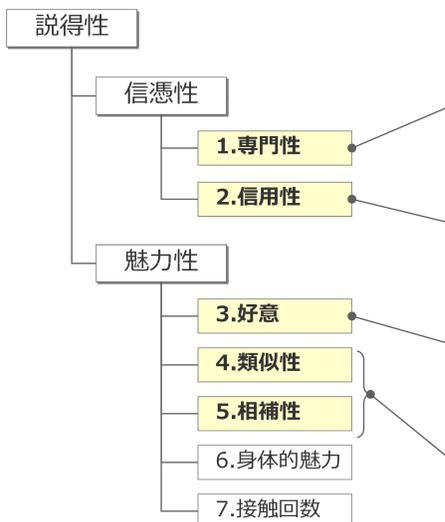
きっかけ

- 2状態で構成
- 自分で選んで**：自ら進んで、能動的に訪店
- 他人に連れられて**：他人に連れられて、受動的に訪店

気分

- 5状態で構成
- 楽しい, リラックス, 普通, 悲しい, イライラ

【説得性（受容の可能性）の要素】



【現状の使用指標と内容】

表示内容	算出根拠
達人度 (●/5点)	■対象ユーザが、記事に記載されているお店に実際に訪れた頻度 ■あるお店についての記事を作成した頻度
頼りがい (●/5点)	■対象ユーザのブログに対する他の人の評価 ■対象ユーザのブログ閲覧後、実際に行動した(訪店した)人数
あなたへの興味・関心 (●/5点)	■対象ユーザが自分のブログを閲覧した回数 ■対象ユーザが自分のブログを閲覧した後に、実際に行動(訪店)した回数
類似度 (●/5点)	■対象ユーザと自分の間のユーザ属性の類似性 ■来店行動の類似性 ■ブログアクセス行動の類似性